

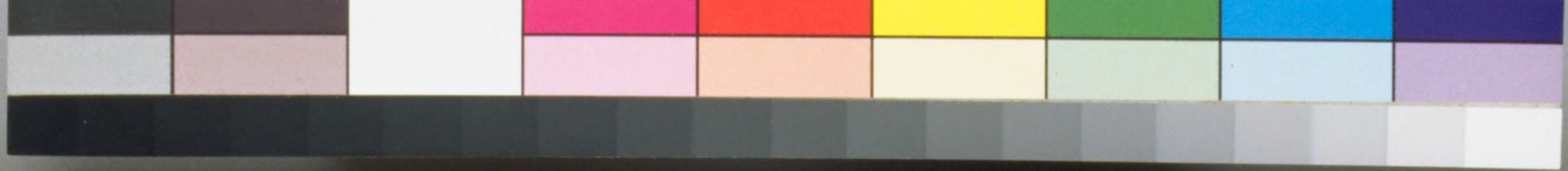
WA 9
8
1

父の恩 2冊 WA9-8 01-001

国立国会図書館







父の恩 2冊 WA9-8 01-002

国立国会図書館













昔もわにへま向此様四月り咲  
占善や宮う極楽て花抄い  
獨りあり千里乃雲長し  
ふあうも南枝も西へま向毒  
花や耳五十展轉れま向方

三外妹  
市櫻  
外五即十歳  
德辨

車色

沾柳

文色

追悼

きしう支や幸と雲路のハ詠と  
幸力ぬ支彼岸様や夜乃五

舊德

松白子

追善

花の名も佛乃由名の古句哉  
春雨いぶんどむし乃候哉  
亡父姑名々も防風此白い哉

釋 松巴

釋 其雄

釋 夜月

歌僊

ほろくせえのへる繪有彼岸乃  
珠数のせ鳩の地虫踏ぬ日  
春此種乃醜ハ枝よりも鏡里均て

沾洲

三外

青菫



歌詠魚しも思われぬ歌

壺月

関の月一書後一糸あはせ

来川

小倉序水敲く万屋

咫尺

黒藁麦ハ初んなく早き律義者

呉丈

寄進大工ハ修日トモ事也

玉之

伊達お前の妹の过子水姉の町

水國

孫水猫寝方板家也夕暮

蓮之

番椒よても海ぬ口とく里

成屋

序三

分別くはく庚里に木音

安士

呪が慈悲ともあつとも肌をぬを

貞佐

嬉しき時も念佛にし

執筆

氷破るるハ辰吉夜也月

咫尺

指端筆乃目る院叅

東里

高んんと天和年中三里紙

水國

名 太刀綿銀子存為妙本

沾洲

吹舟味留ハ海くか社醫友

壺月

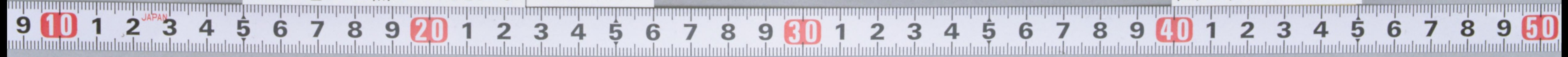




灯―巾竹もかほ次俗身子  
 祭のふかへハ陣々ぬ唐扇子  
 連さへぬくハ美一の候  
 虚立僧もかほ々相由れ自いじ  
 信濃へ取て投りり凍  
 振袖て木枯葉かくなる歌ある  
 夜着此奈れ哺めらる  
 帘捲きそをそ異字はひ  
 青我  
 三外  
 貞佐  
 安士  
 吳丈  
 玉之  
 来川  
 東里

序四

夕月まらも赤下子蹴る  
 蚊柳の虫向ふて居るち淋一  
 恥と恥々も秋の曇顔  
 掃海の風をかめ寸讀書總  
 三男素足次男草足袋  
 賣て仍夜越大坂の執声  
 状日材布の頼参るん  
 証録寸極めて茶此尖里堂  
 安士  
 蓮之  
 貞佐  
 青我  
 三外  
 治洲  
 咫尺  
 成屋





涅槃法門越ゆる茶枯者

壺月

追福

年抄苜松ハ春女々未レ堂

山夕

茶枯のぬ春もあつし其年代記

一漢

きしつふや土器倍養法一も草

青峩

生食よ才ある牛も毎柳

貞佐

所西中級の親あつのほ里

泰室

世話も魚籃ぶ多草茶枯田螺

成屋

算筆や物話も調へて倍養也と

沿山

手向女ハ秩拒あてよ饒柳

水國

是やあつ遺教經の古きうぬ

来川

菜枯花や園の川筋手向水

超波

同

ぬる蝶の足ぬ世の顔や倍養佛

勢吉

あまも紅梅乃茶といえんい

魚水

海棠法寐物を法然一もおしけ

傘車



抱傳の智恵はを級やいのほろ

追遠

青條

諸也吹香さへはかろ梅裔

貞磨

常や占る者のほろほろ

蓮雨

おのー皆苦き八耳し路の臺

沾郷

追慕

汝の父おめくきち宵廻向

素丸

月のとらにゆめ形見の紋所

長水

序六

遠吊

詩や尻 哉二月の日向早

車員

橋船おの唄ひ初流し波岸鐘

雨磧

僧正の神を御梅去ッ盛マ

吟夕

葉おまや窓おの春の日向磨

嵐朝

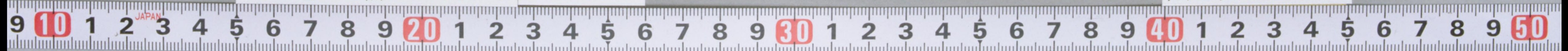
追懐

六の口免き六の唱へやあは春

おま

おの二葉々後おしーおし

我兄





梅散る雛の脊中も春の那  
太刀筋を一見卒に雲梅なる  
金札の大福帳や法の華  
蟻子  
故洲

亡父の因忌にあきりてを流るるの  
女信養とくくく  
光廣の梅の枝を流りてを流る  
あまも似て

あまの葉月雷入てな梅  
うさ声あふ春もあまのには  
生残る人哉教への子実哉  
百菴  
沾寫  
沾魚

蝶の羽とのすめあふり青の如  
指片寸や梅のすもも都卒天  
可圭  
十指

悼古

只しや世も初鳴神も西の空  
其の詠梅香一や方百里  
十牛ハ世々梅鏡花の兒  
和風  
夜霜  
闇磔

遠忌

比二内浦く堆集梅を向如登  
鳳翠





故市川才牛ハ思ふと色戯補  
しと世の知る事子三升次  
名我鳴り今尚志の宗  
康成歳如月慈父廿七周乃  
作善ぬらめ所の俳句をり  
ては俳子劉宗謝超宗の殷叔妃  
子誄をけりて鳳毛を養ふ所  
もやを好むれ頼る香あま  
あまをこき徳は所の序跋ふ

席八

何ん才牛世にあつて時業を  
同しりてまうれ交友江都におり  
ふ成終書留あまを此年月時日  
戒名何奇号何と六九點血簿  
に記さる相又香飯を備へ  
病んら疾りるを云々此と亡父  
仕置るゆゑたかひく元禄十七年  
より今迄ふまも七人七中系  
あつて遠るがふれあやうふを





老をくまわらうと曰急の誹入り  
其得し所はちのちあはれ癖  
うらぐ既旬たりぬと終に  
趣は平女書の色をいふ  
あつと巫とあはれ終りつ  
内より阿はれすの道に  
乃小南ういぬとくらす  
と心化然た家ふち  
尤もとも終る月ぬら

物も中れと終る如く  
吟しと字舞とと音律を  
月さられあはれと常  
風の音と身ちく  
笑んせし詞花言葉  
かのうれとあはれと  
贈る物ぬらと

とらぬ





蓬萊乃父のふりや雉志多

其角

増上寺中  
常照院

元禄十七甲申年  
二月十九日  
門譽入室覺榮

俗名  
古市川團十郎







此つ下次坂東を布又雷解

咫尺

正理院

下谷宗延寺中

元禄十七甲申年  
正心院宗慶日泮  
二月廿八日

俗名  
古坂東又太郎







関好く帽子此人目沢括梗

浄林寺

青峯

寶永元甲申年  
宗順院日耀  
八月十九日

俗名  
荻野澤之邊







宝永二乙酉年  
妙莊院普觀日門

俗名  
小嶋平七

七月十三日

三田薬王寺

敷盛乃法堂の役也世哉

去て二十余年

沉詳

おのちと庭のそりて魂灯籠





至永二乙酉年  
 岸譽助給  
 十二月九日

伊四子  
 長安寺

俗名  
 古西國兵五郎

掃ヶや煤古子鳥帽子哉婦天窓

貞佐







宝永三丙戌年  
長阿宗林  
四月廿四日

俗名

生嶋大吉

浅草日輪寺中

寶珠院

俱胝の豎指母願悟一きり  
童子世人乃風流と一奇體也  
淨宗此佛果ハカシ法ん公徳の  
九不筭百妙も子如也す一そや

文東

かかへる四劫に花や神夢







宝永四丁亥年  
正月廿七日

淨譽念求

俗名

出来嶋小晒

浅草誓願寺中

快樂院

桃舟

雪如根比ゆむむい流あはしり





弓流寸秘も如安又乃小彼家

沾徳

寶泉院

本所法恩寺中

宝永五戊子年  
心鏡院杏實日映  
二月三日

俗名  
古中村七三郎







鳩池泉乃法方初弟岩如龜堂

富百

東陽寺

浅草八軒寺町

宝永五戊子年  
智山常光  
四月廿二日

俗名  
出来嶋半弥





宝永六己丑年

通照院道入日念

正月廿日

谷中

長運寺

俗名

上村花右衛門

夏分の拍木を乞ふ良時

春耕





宝永七庚寅年  
花容院清林日香  
二月六日

俗名  
三尾木雞波

三田  
藥王寺

釋  
專吟

此中より如小角豆此粒乃毒量不  
おの吟ハ百ヶ日追福の句也







楊や花の酌るは弾のきり

圓常寺

倫里

寶永七庚寅年  
廣受院宗林日記  
五月廿二日

俗名  
葉山岡右衛門







宝永七庚寅年  
儀山全勇  
六月廿日

愛宕後通

忠岸院

俗名  
横山六郎治

蟬乃外母はいつりたある事か

故一





壺新乃孫所流のひや桐火桶

泰室

昌泉院

増上寺中

正徳元辛卯年  
願譽順誓信入  
十月十九日

俗名  
小勘太郎治





菴のみそ仕給ふぬ時を冬様

正徳元辛卯年  
 明宗光還  
 十一月十五日  
 増上寺中  
 浄運院

俗名  
 小野川千壽

里童







正徳二壬辰年  
智相明光  
六月朔日

増上寺中

浄運院

俗名

久松多三太

山願二

声只はん寺とてのま向の甚躰





山茶花や母の里山に筑ふ児善賢

観智院

市櫻女

正徳二壬辰年  
深性理還

十一月廿四日

増上寺中

俗名  
市川若松







秀如白丹朮村乃梅白し

土菴

正徳三癸巳年  
林翁淨清  
正月十二日

今戸  
慶養寺

裕名  
村山四郎治







正徳三癸巳年  
圓寶院玉山日登  
閏五月十五日

下谷  
宗延寺

俗名  
古嵐正世三郎

清よか〜ぬハ女祓向を古嵐

安士





正徳三癸巳年  
本住院道觀日法

俗名

中村傳九郎

十月廿五日 牛嶋 妙玄寺

- 一 躬比奈ハ家のもの
- 一 乃新奇也
- 一 拍子子名卷

沾測

三 盤乃光里き如いあ町會式





正徳五乙未年  
 正等院宗覺日成  
 五月十八日

三田薬王寺

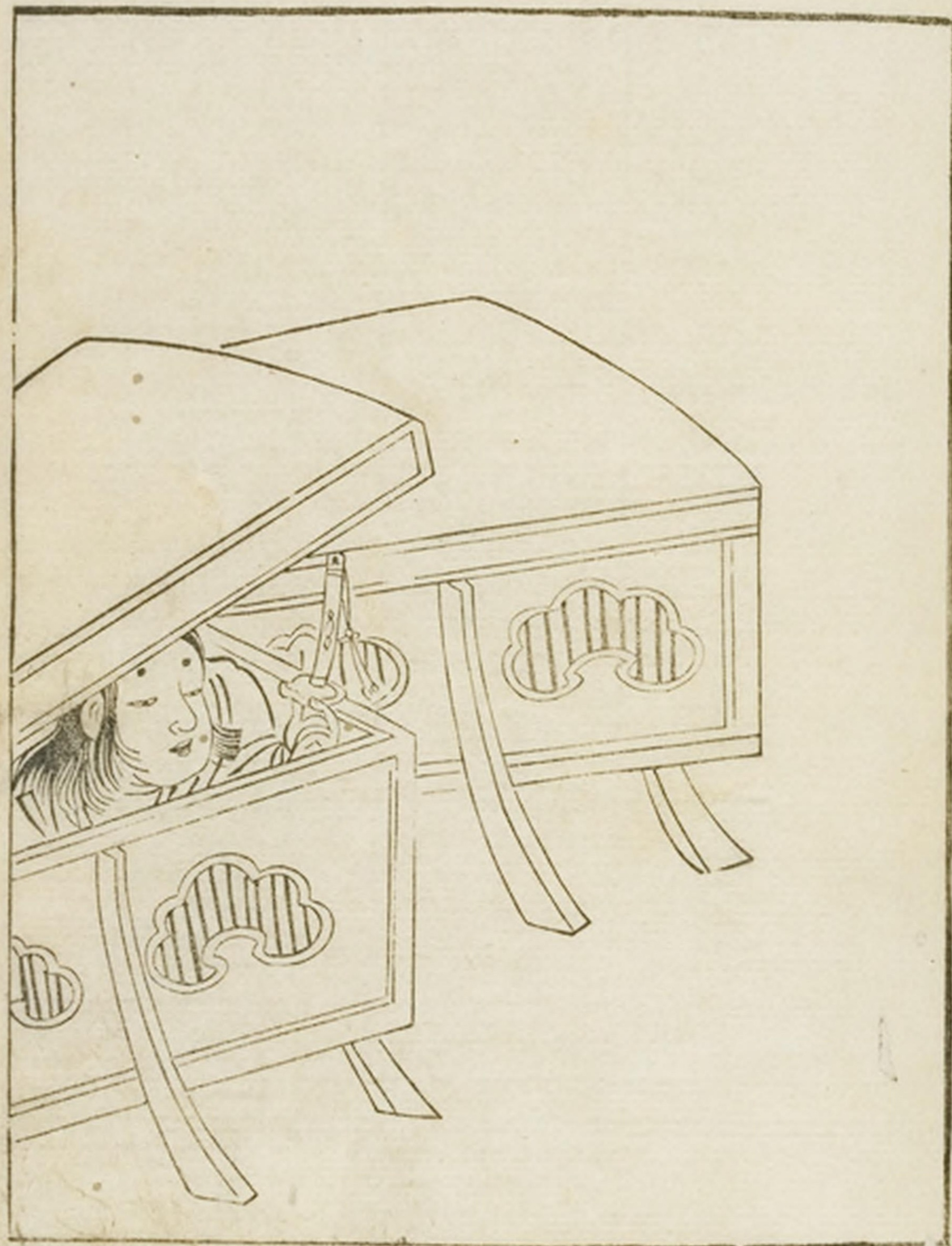
俗名  
 花井源九衛門

しらをきりて陳皮槌の木造り也

杵曉







正徳五乙未年 俗名  
 圓心院宗壽日量 中村峯之助  
 七月四日 谷中三崎坂四寺中一乘院

園之窓門之廻の秀きるも各市川の  
 流色流し其中間此若衆志はく  
 せぬ唱て舞臺の外ぬあ昼とく  
 わのきり残者又志終る子有々三升  
 慈父追福乃はおてぬあきとのあつハ  
 ひとくよ懐のみえとさくそくあ哉  
 と向るあらしし 半鱗

覺香持大捨乃字禮年





一葉散ばらばらと  
 風も吹くや  
 琵琶の上

琴助

正徳五乙未年

芝風柳岸

七月十九日

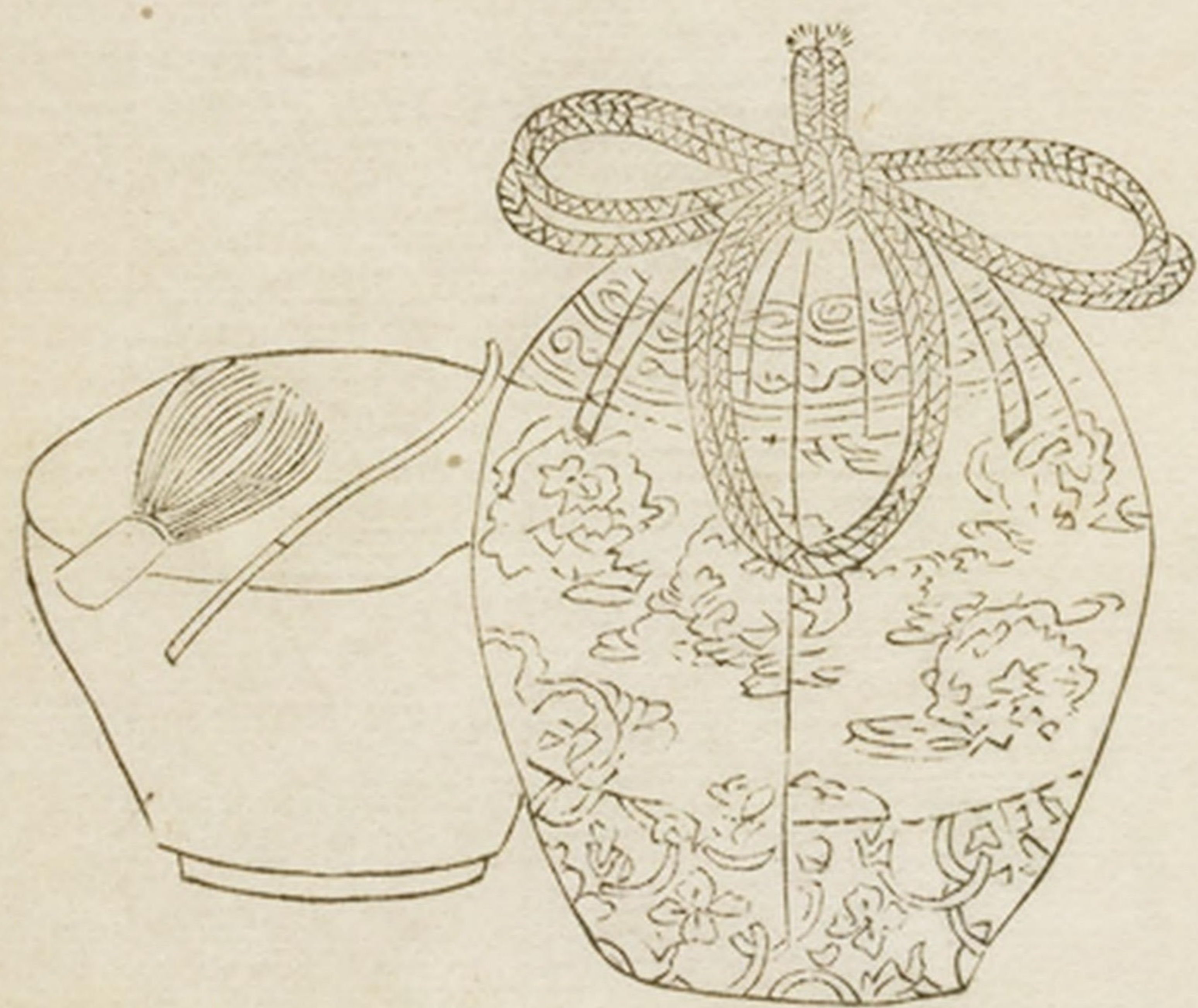
深川本誓寺中

齡閑院

俗名

出来嶋若弥





正徳五乙未年  
實相院日了  
十一月廿三日

谷中  
長運寺

俗名

左近伊兵衛

藤橋

口切や紗金結ひ乃衣裳日記





正徳五乙未年

映譽歸運

十二月十九日

増上寺中

観智院

俗名

瀧川吉平次

菊文

雪路やみちぬ松乃使若男





かたしすの牡丹もつとを分二蓋笠

坂本入屋 感應寺

一漢

正徳六丙申年  
真光院了智日信  
四月廿一日  
俗名 古中嶋勘九衛門







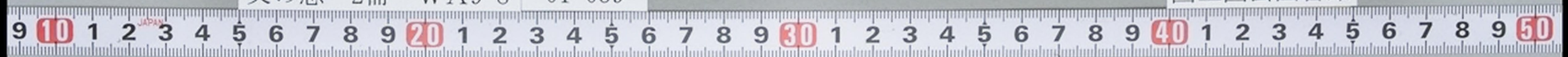
如安屋てい 斐成男子杜名

文声

雜司谷 本能寺

正徳六丙申年  
 玄淨院義進日妙  
 四月廿四日

俗名  
 中村源之助







正徳六丙申年  
 五月十九日  
 法恩寺中 正運院

俗名  
 出来嶋左五郎

沾徳翁ハ合歡堂古少長ハ  
 杏実ニ居五房ももに一蓮の  
 法恩寺ナリ終ニ

八町

合歡堂子存終やすらふ暮年い





正徳六丙申年  
 苔岸蓮暉  
 六月十三日

俗名

濱崎碓五郎

谷中 盛泰寺

雲居古拙上人 贈西院經の  
 弓兩を呈せしむるに  
 せり

袋草紙

王之

夕立や守屋ハ法乃歎及





享保元 丙申年  
 誓譽本誓靈殘  
 六月十四日  
 深川靈巖寺中深照院  
 俗名  
 藤田長左衛門

世長左衛門の名を安んじ  
 鶯鳴乃吉音鳴り也

車声

風蘭の藝ハ少らし物音呼





吾妻とくろく  
 彰也映箱解

岸鷺

享保元丙申年

學陽善知

九月五日

谷中妙円寺中

一乘院

俗名

吾妻東藏





又ハ豚良菜口ハ若笑ハ

雨橋

享保元<sup>丙申年</sup>

真行院淨立日信

十二月十七日

法恩寺中

千林房

俗名

西村弥平次





享保二丁酉年  
五月二日  
性譽真了

深川  
正源寺

俗名

古市川團四郎

巴中

文苑裁別好きり蟬乃澁





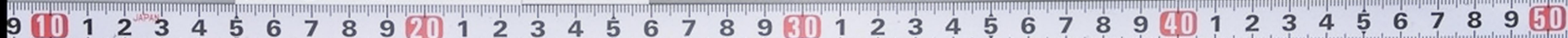
享保二丁酉年  
觀譽量喜  
十月十一日

靈巖寺中  
正覺院

俗名  
鈴木平吉

此實覺かほりとはてはるるお葉

里編







享保三 戊戌年  
 淨心院善教日唄  
 六月五日

谷中 妙福寺

俗名  
 村山平右衛門

あるまじき氷筋はぬ家さゆり

茨鷄







明六乃か録房中し雲乃志

貝錦

享保三 戊戌年  
 實教院永遠日感  
 十一月廿一日

谷中  
 長運寺

俗名  
 古録倉長九郎





年と日や山乃下り十二月

享保三 戊戌年  
梅譽證山  
十二月八日

俗名

古山下輕藤

浅草寺町光感寺中

栄林院

十町





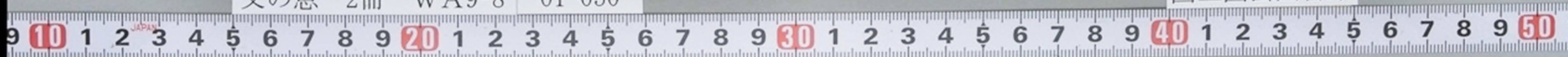
享保四己亥年  
 馨譽良薰  
 正月廿八日

俗名  
 坂田房門

鳥越壽松院中  
 隆宗院

富川

氷雪舟子色茂智地俄解







享保四己亥年

心譽言助給

六月六日

橋場 法源寺

俗名

竹田源助

輕業おふあま様あへり  
 子子孫孫おつりおろし

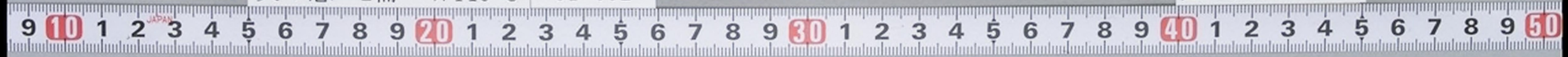
宗之

法分のまゝに糖より海老の湯ぬき給





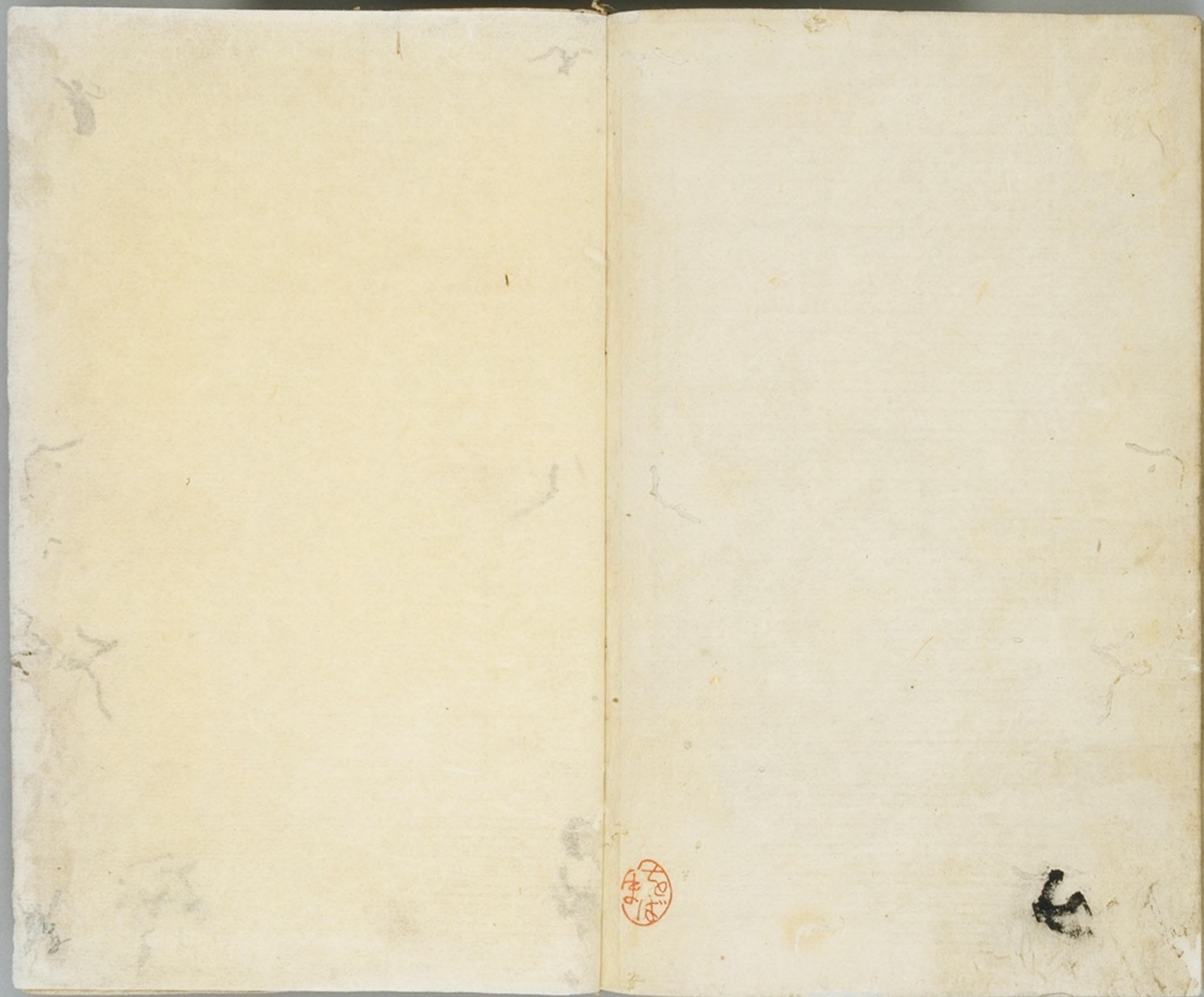
享保四巳亥年  
 華屋順栄  
 八月八日  
 浅草  
 天嶽院  
 俗名  
 山村惣左衛門  
 乗月  
 多力は流る腰越しより支那の籠縄  
 兎江









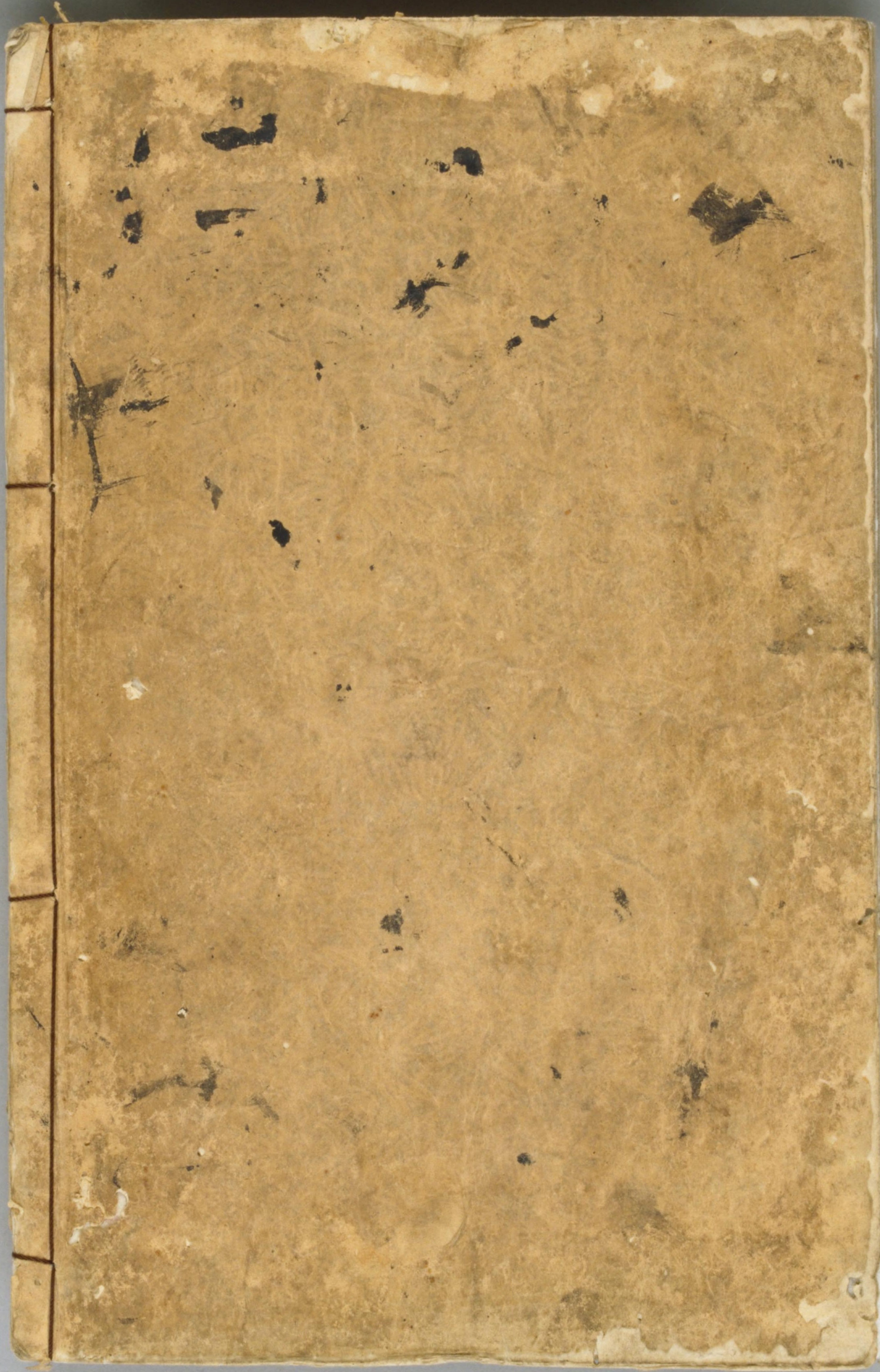
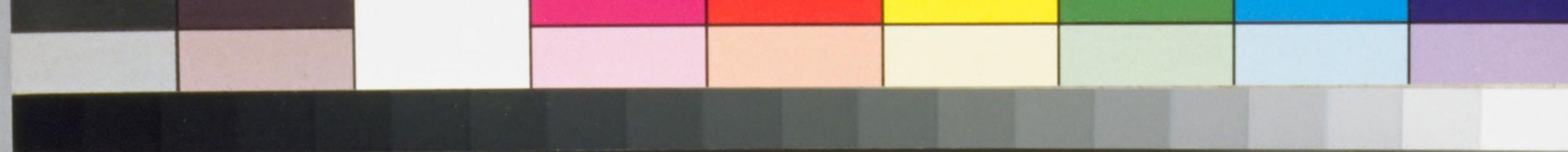


父の恩 2冊 WA9-8 01-054

国立国会図書館







父の恩 2冊 WA9-8 01-055

国立国会図書館

